

47 講演要旨と掲載報文。

私が所属する「練馬郷土史研究会」「練馬地名研究会」の講演要旨、掲載報文の写し。資料一 28

地名の付いた野菜の変遷

「東京ゆかりの野菜」編集委員 福井 功

はじめに 「野菜と地名」の話をするわけですが、実は内心忸怩たる思いでおります。

三十年以上野菜の研究をしてきた者ですが、今回あらためて辞書を引いてみました。

野菜は「野にある菜」とありました。野は「山と異なり平らな所」、菜は「主食に添えるおかず」とありました。野菜とは「平らな所に生えるおかず」ということになります。

ついでに地名を引いてみました。地は「限られた場所」、名は「有形無形の事物を表すもの」とありました。関係無さそうな野菜と地名ですが、実はおおありです。

生物学と野菜 少し堅い話になりますが、生物学の基本に実験遺伝学というのがあります。例えて言うと振子の運動のようなものです。振子が一番振れる所は真ん中です。両側では静止します。真ん中を重点にするけれども、両端も、その中間も平均に観察しなければ判断を誤ります。

野菜は百三十六種類位あります。園芸学から見ますと練馬大根も、カイワレ大根も同じ種類です。だが青果市場で取引される野菜は四百も五百もあります。そのうち、わが国固有の野菜は驚く勿れ十一種類だけです。残りはみな外国からきた野菜です。誰か人が持ってきたものです。中には、ひょうたんのように自分で流れてきたものもあります。日本の野菜は全世界から集まってきています。

野菜の名前 野菜の名前をみると、その生まれ故郷が判るものが沢山あります。

例えば南瓜カボチャはカンボジアから来たといわれています。南の瓜と書くこと自体無理で、江戸時代には文字通りナンカと呼んでいたようです。「ナンカとは何んか」など洒落にもなりません。

ジャガ薯はジャガタラから来たからです。馬鈴薯と書くのは、ある本に「ジャガ薯の形 馬の鈴に似る」とありました。イモの字にも色々あって、サツマイモは藪、ヤマイモ、サトイモは芋の字を使います。

渡来野菜はみんな生まれた所の地名を背負って来ています。ですから野菜の名称と地名は非常に関係があります。地名に当字は多いですが、野菜の名にも当字は相当あります。日本に文字が無い時代に呼んでいた野菜に、文字が入ってきてどういう文字を当てるか、問題だったと思います。

万葉仮名は一つの音に幾つもの文字を当てています。春の七草、スズシロを私達は
大根だと信じていますが、当字が二つも三つもあって、大根ではないという説もあり
ます。

日本に古来からある野菜には、単純明快な名が付いています。ミツバは葉が三つあ
るからです。セリは競り合って生えているからです。ワラビはわらわらと生えている
とも、わらしの手のようだからともいいます。

ものによっては先のナンカのように文字に発音を合わせたものもあります。

余談ですが、子供のころバタンチュートルとは何んだ。などと謎々遊びをしたも
のです。鼠捕りのことですが・・・。

日本固有の野菜の命名も同じ発想で、状態をよく見て感覚的に名前を付けたので
す。ところが文字伝来後の野菜は文字によって名前と当てはめました。発想が全然違
います。

セリは本当は「競」と書くべきところ芹と書きます。少しも競り合っている感じが
ありません。

地名も同じです。このことを知らないと地名研究はできないと思います。

前近代の野菜 日本野菜は明治以前と以後では大分違います。江戸時代は鎖国し
ていましたから、野菜はそれより前に、主に大陸や南方から渡ってきました。

トウガラシは唐からきたカラシという意味です。またナンバンというから南蛮国か
ら来たともいいます。大陸から来たのもあるし、南から来たのもあるし、黒潮に乗っ
て勝手に流れ着いたものもあると思います。黒潮に乗ってきたもので、いま判ってい
るのはヒガンバナです。

人の苗字で出身地が判るように、昔の野菜は名前でも原産地が判ります。胡瓜、胡
椒、胡麻、胡桃の胡は中国思想による西方の野蛮な国という意味です。コショウ、ゴ
マはなんとか読めても、キュウリ、クルミは当字です。